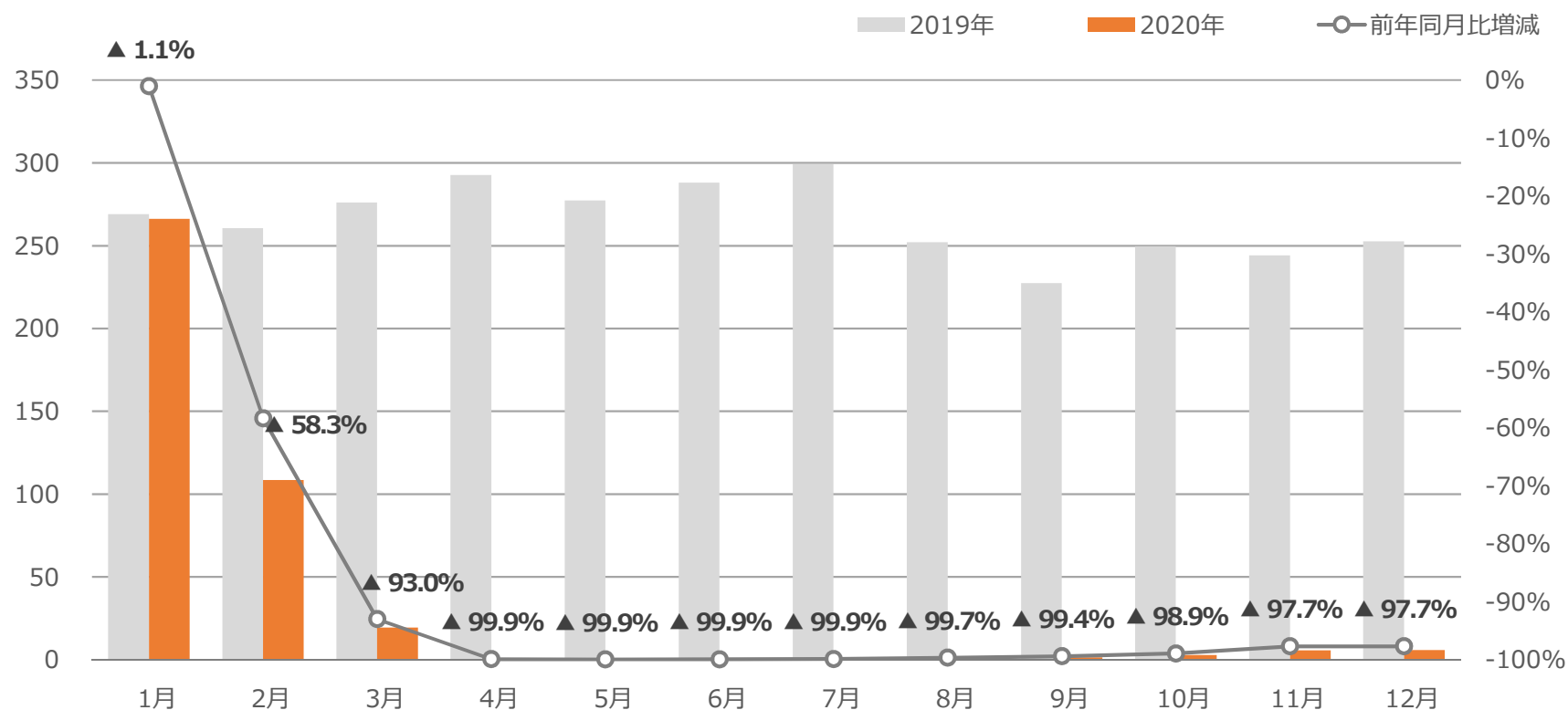


2020年の全国および国立公園等 における利用動向

2020年の日本全体の訪日外客の状況

- 2020年の訪日外客数は**411.6万人**と**前年比87.1%減**であった。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大により水際対策が強化され、訪日外客数は2020年2月以降大きく減少、4月から7月は**前年同月比99.9%減**とほぼゼロに近い数字となった。7月以降、国際的な人の往来再開に向けた措置が段階的に進められ、ビジネス目的の入国が限定的ながら再開されたが、12月においても前年同月比97.7%であった。
- 2021年3月現在も、検疫強化、査証の無効化等の新型コロナウイルス感染症の水際対策が継続しており、**観光目的**の入国は依然として**認められていない**。

訪日外客数の月別推移（単位：万人）

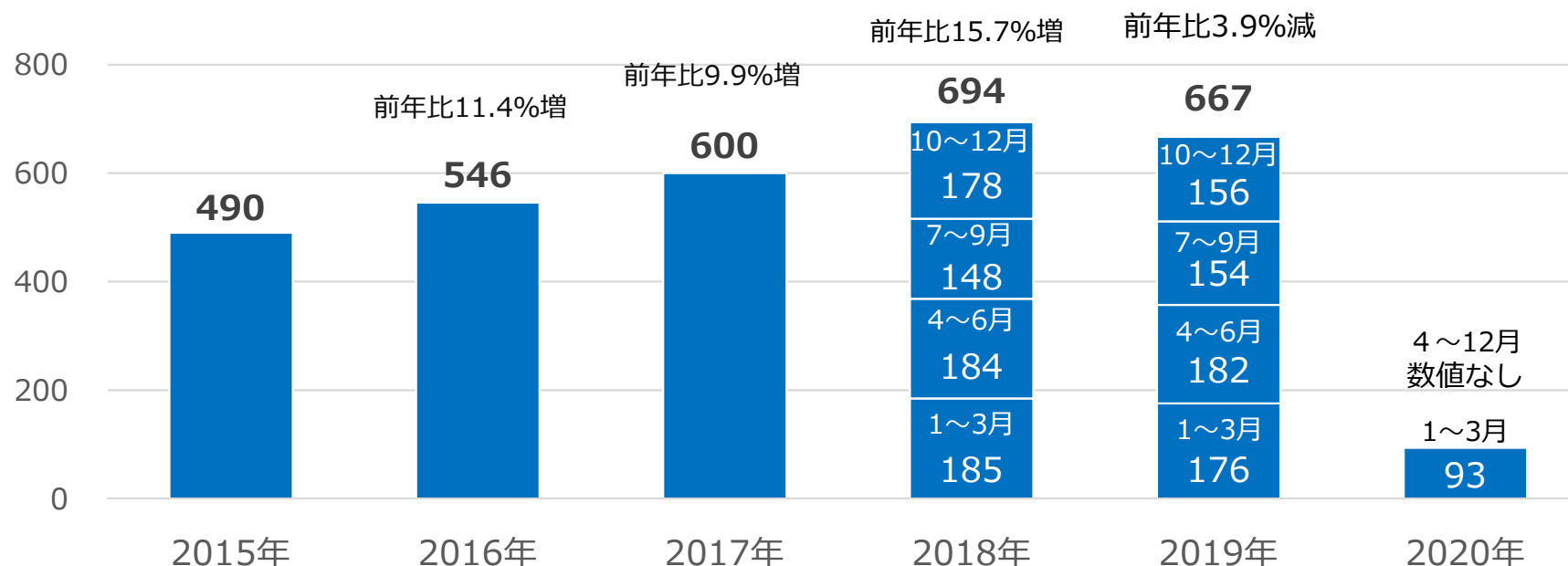


出典：日本政府観光局

2020年の国立公園における訪日外国人利用者数

- **2020年の国立公園の訪日外国人利用者数は算出不可**。4月以降新型コロナウイルス感染症の影響により入国制限が拡大し、推計に用いている観光庁「訪日外国人消費動向調査」が4～12月期に中止されたため。**1～3月期の国立公園訪日外国人利用者数は93万人と推計**。前年同期と比較して**82万人減（46.8%減）**。
- 国立公園外国人利用者数は、インバウンド市場の拡大成長とともに**2015年から2018年にかけて前年比10%以上**と好調な伸びで推移し、特に2018年はプロジェクト開始以来最大の伸びとなったが、2019年は韓国客の減少や利用者数の約3割を占める中国の伸び率が下がり微減となった。

国立公園における訪日外国人利用者数（単位：万人）



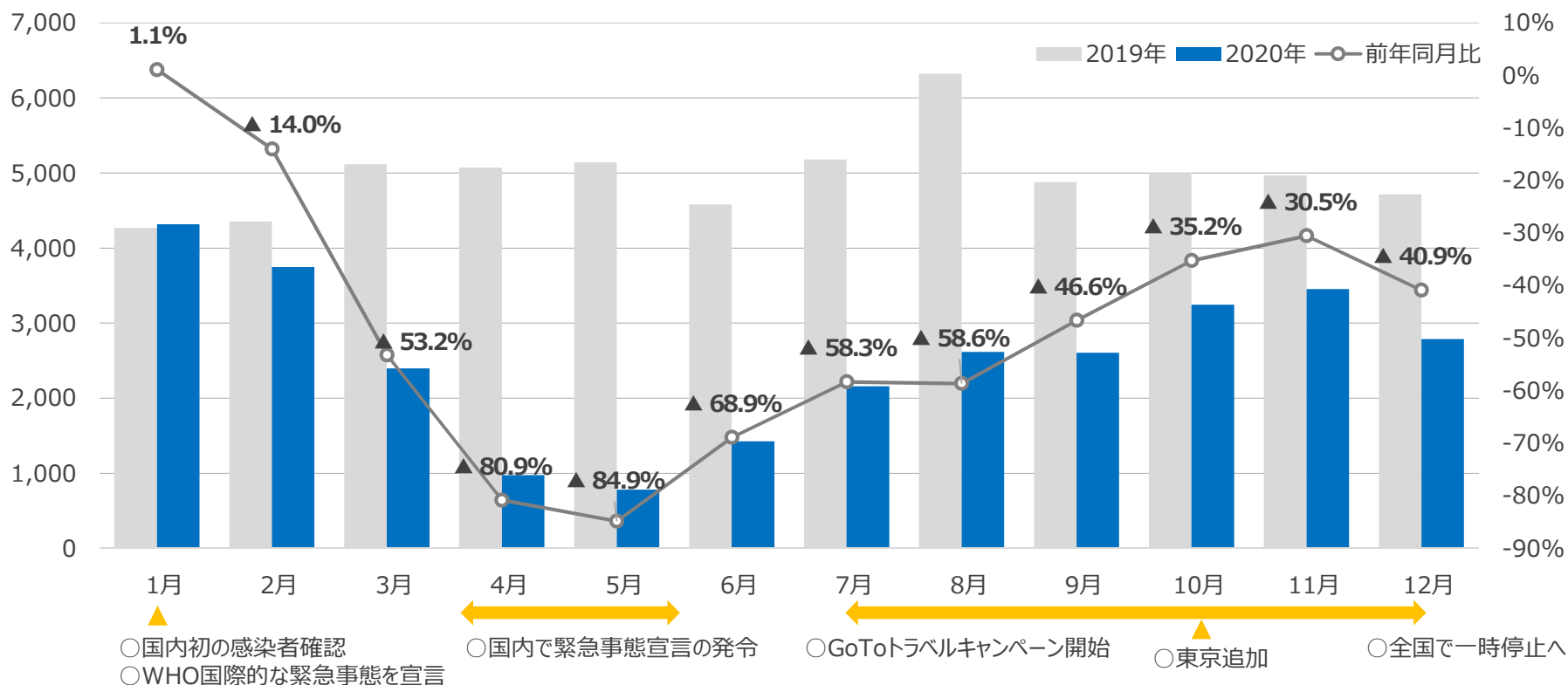
※四捨五入による端数処理により、合計値が一致しない場合がある。

なお、2020年の質の指標については、新型コロナウイルス感染症の影響により訪日外国人利用者に対するアンケート調査を中止した。

2020年の日本全体の国内客の状況－宿泊者数

- 国内延べ宿泊者数（日本人および外国人）は、国内で感染が拡大した2020年3月以降、大幅に減少し、**5月には前年同月比84.9%減**となった。
- 5月末に緊急事態宣言が全国で解除、7月にGoToトラベルキャンペーンが開始されると、**宿泊者数は徐々に回復し、11月は前年同月比30.5%減**となった。しかし、再びの感染状況の悪化から、GoToトラベルキャンペーンが全国で一時的に停止となり、**12月は前年同月比40.9%減**となった。

国内延べ宿泊者数（単位：万人）

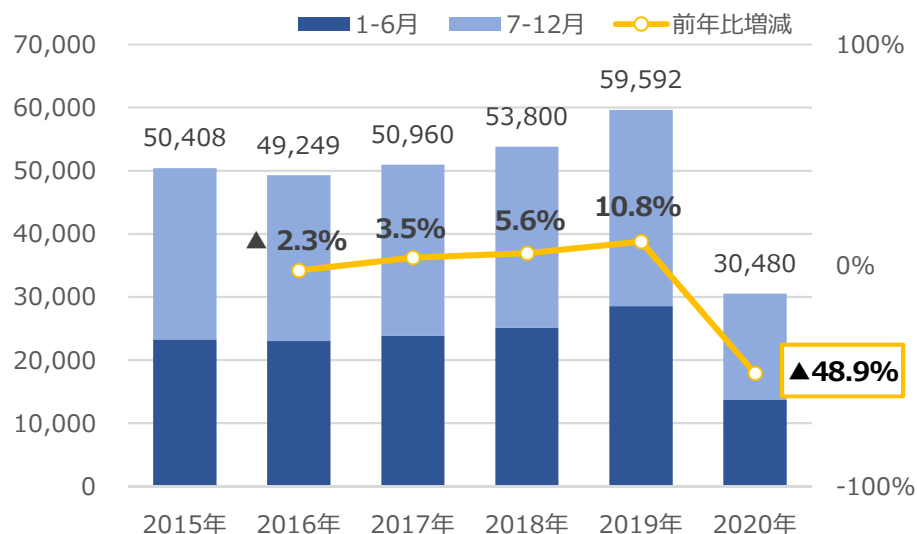


資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」よりJTBF作成

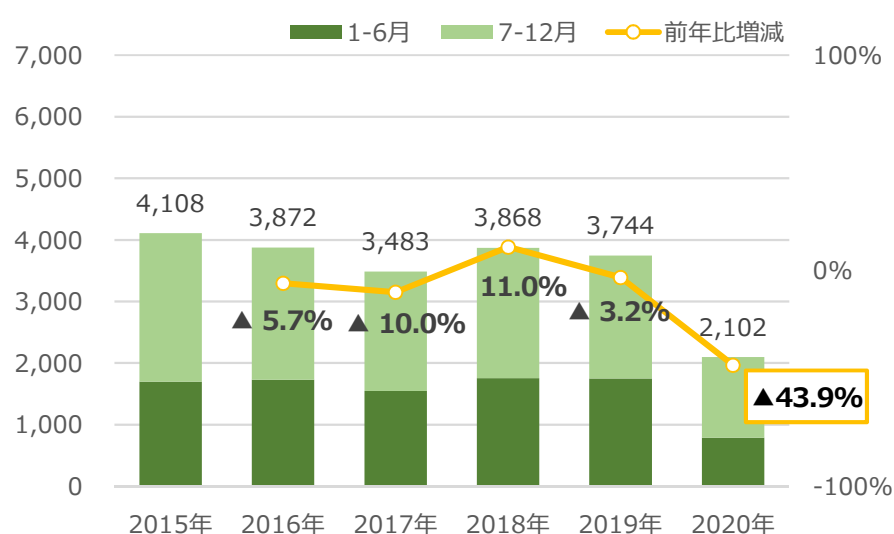
2020年の国立公園における国内客の状況－宿泊者数（全公園）

- 全国の国内宿泊者数は、2015年から2016年にかけて減少したものの、2017年から2019年にかけて増加傾向。
- 国立公園区域内における国内宿泊者数は、2015年から2017年にかけて減少、2018年に増加したものの2019年に再び減少に転じた。
- 2020年は新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、いずれの宿泊者数も減少。その前年比は全国で48.9%減、国立公園内で43.9%減と、国立公園内の方が減少幅が小幅におさまった。

全国の国内延べ宿泊者数（単位：万人）



国立公園区域内の国内延べ宿泊者数（単位：万人）



※国立公園内の宿泊者数は、観光庁「宿泊旅行統計調査」の調査票情報を利用して推計。

※2015年～2019年は、「宿泊旅行統計調査」結果の確報値、2020年は同調査結果の速報値を使用。

2020年の国立公園における国内客の状況－宿泊者数（公園別）

- 2020年はコロナ禍を受け、大部分の国立公園区域内で宿泊者数が前年比減となった。宿泊者数が半減するなど大幅に減少した公園も複数存在する。
- 一方、秩父多摩甲斐国立公園では前年並みとなっており、首都圏在住者が近場旅行で訪れたと考えられる。

2019年および2020年における各国立公園区域内の延べ宿泊者数（人）と前年比増減（％）

公園名	2019年 (確報値)	2020年 (速報値)	前年比増減
1 利尻礼文サロベツ*	-	-	-
2 知床	12,361	11,227	▲ 9.2%
3 阿寒摩周	828,567	420,886	▲ 49.2%
4 釧路湿原*	966	-	-
5 大雪山	775,526	342,448	▲ 55.8%
6 支笏洞爺	3,631,085	1,641,860	▲ 54.8%
7 十和田八幡平	556,323	343,482	▲ 38.3%
8 三陸復興	123,375	96,091	▲ 22.1%
9 磐梯朝日	861,876	608,543	▲ 29.4%
10 日光	4,682,377	2,879,485	▲ 38.5%
11 尾瀬*	-	-	-
12 上信越高原	3,005,606	1,699,748	▲ 43.4%
13 妙高戸隠連山	375,971	272,172	▲ 27.6%
14 秩父多摩甲斐	146,480	147,729	0.9%
15 小笠原*	-	-	-
16 富士箱根伊豆	11,370,294	5,927,883	▲ 47.9%
17 中部山岳	1,033,421	471,592	▲ 54.4%

公園名	2019年 (確報値)	2020年 (速報値)	前年比増減
18 白山	26,032	4,405	▲ 83.1%
19 南アルプス	21,845	5,330	▲ 75.6%
20 伊勢志摩	2,966,324	2,137,598	▲ 27.9%
21 吉野熊野	686,928	409,061	▲ 40.5%
22 山陰海岸	855,922	596,820	▲ 30.3%
23 瀬戸内海	1,618,007	850,086	▲ 47.5%
24 大山隠岐	334,875	153,242	▲ 54.2%
25 足摺宇和海	152,214	80,028	▲ 47.4%
26 西海	65,268	31,135	▲ 52.3%
27 雲仙天草	460,911	286,575	▲ 37.8%
28 阿蘇くじゅう	1,248,665	608,927	▲ 51.2%
29 霧島錦江湾	691,811	380,778	▲ 45.0%
30 屋久島	1,034	10,520	917.4%
31 奄美群島	14,616	13,380	▲ 8.5%
32 やんばる	72,611	89,139	22.8%
33 慶良間諸島	315,730	133,704	▲ 57.7%
34 西表石垣	505,801	364,219	▲ 28.0%

※この推計は、「宿泊旅行統計調査」（観光庁）のデータを利用し推計したもの。推計にあたっては宿泊旅行統計で用いられている母集団名簿の内、国立公園区域内に含まれている宿泊施設を抽出して実施した。

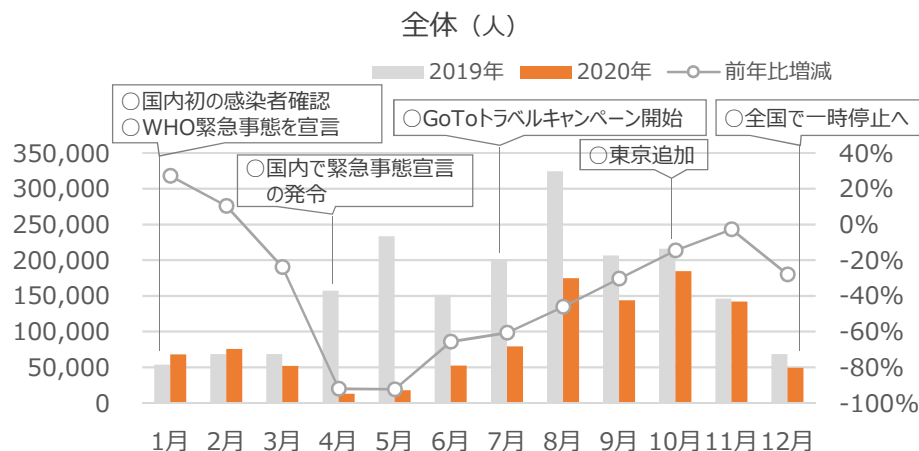
このため、特に国立公園区域内に存在する宿泊施設が少ない国立公園については、地域の宿泊実態との誤差が大きい可能性がある（白山国立公園、南アルプス国立公園、屋久島国立公園、など）。

*「尾瀬国立公園」「小笠原国立公園」は公園区域内に対象となる宿泊施設が無いため、「利尻礼文サロベツ国立公園」「釧路湿原国立公園」は当該年の回収数が0のため、推計不可として扱った。

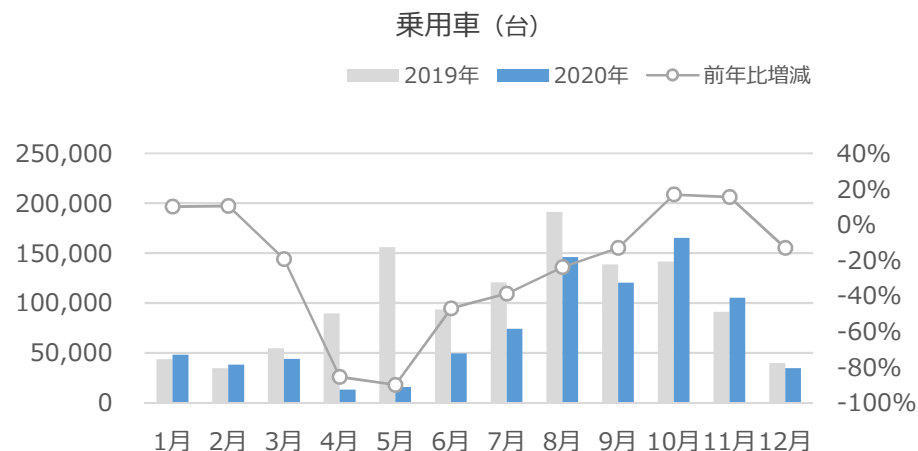
2020年のビジャーセンター利用者数

- ビジャーセンター利用者は、2020年1月から5月にかけて減少。特に**緊急事態宣言下の4月および5月に大幅減**。
- 駐車場（自然公園財団管理運営）データでは、**乗用車は6月以降、大きく回復**。一方、大型バスやマイクロバスなどの**団体の利用の回復は遅く**、8月以降徐々に回復したものの、もっとも回復した10～11月においても前年比5割減にとどまった。
- GoToトラベルキャンペーンの利用が進んだ11月には、**ビジャーセンター利用者数および乗用車台数は前年並み以上に回復し、全国の宿泊者数に比べて回復が進んだ**。コロナ禍で自然観光やドライブ旅行への関心が高まったことの表れと考えられる。

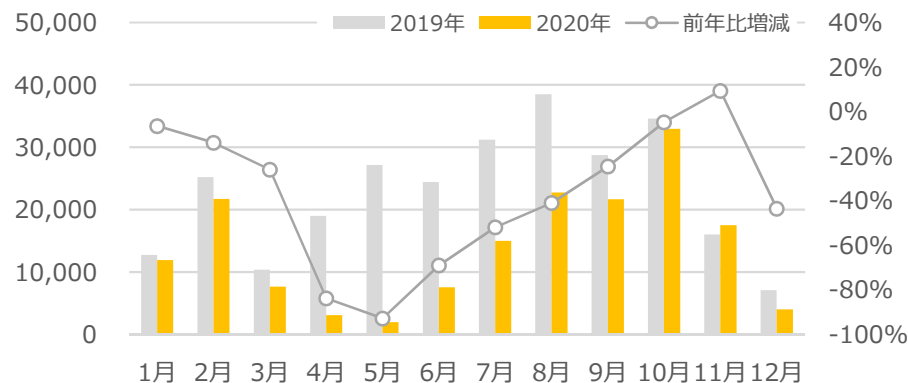
環境省直轄ビジャーセンター（うち12施設）の利用者数



国立公園等（自然公園財団管理駐車場）の入庫状況



（具体例）支笏湖VC（人）



車種別の入庫状況の推移（前年比増減）

